

研究課題報告

International Workshop on Islamic Economics

Co-organized by Kyoto University Global COE Program: In Search of Sustainable
Humanosphere in Asia and Africa; Center for Islamic Area Studies at Kyoto University
(KIAS); Durham Islamic Finance Programme, Durham University, UK

(イニシアティブ 1 研究会)

- ・日時:7月23日(木)13:00-17:45、24日(金)9:00-18:00
- ・場所:京都大学本部構内総合研究2号館(旧工学部4号館)4階会議室(AA447号室)

タイトル:

Evaluating the Current Practice of Islamic Finance and New Horizon in Islamic
Economic Studies

発表趣旨:

近代イスラーム経済学 (Islamic Economics) は、イスラームの理念にもとづいた経済制度・経済システムを現代世界に再構築することを目的として 1940 年代半ばから探究が行われてきており、1970 年代から現在にいたるまでのイスラーム金融の商業ベースの本格的な展開を理論的に支えてきた。しかし、近年見られるようになってきたイスラーム金融の実践の多様化の動きや、イスラーム金融の実態を批判的に捉え直す動きに伴って、金融以外の経済セクターにおけるイスラーム的な制度の構築の必要性に大きな注目が集まるようになってきている。本ワークショップでは、近代イスラーム経済学の中で中心的な位置を占めてきたイスラーム金融研究の到達点と新たな展開を振り返るとともに、イスラーム経済学の新たな地平を切り開くことが期待されている現代ワクフ論やイスラーム土地制度論といった新規研究領域の可能性を考えてみたい。

発表と議論の内容:

京都大学とダラム大学との共催となった本ワークショップは、英国からイスラーム経済を専攻する研究者 9 名に加えて、アジア地域における研究拠点でもあるマレーシアからも 3 名の次世代研究者が参加し、国内からの報告者 4 名を加えて、総勢 16 名による報告が行われ、日本国内で開催されたイスラーム経済研究ワークショップとしては史上最大の規模となった。

ワークショップは、ダラム大学のイスラーム金融プログラム (Durham Islamic Finance Programme, DIFP) の研究リーダーでもある Mehmet Asutay 氏と、マレーシア国民大学でイスラーム経済研究グループ (Islamic Economics and Finance Research Group, EKONIS) を指揮する Abdul Ghafar Ismail 氏による 2 つのワークショップ・スピーチに加えて、4 つの報告セッションが設けられた。Mehmet Asutay 氏によるスピーチ“Locating Islamic Finance in Multiple Modernities: Searching for a Place in Secular Public Sphere through Banking and Finance”では、西欧近代を相対化するなかでも現代世界におけるイスラーム金融の位置づけとその可能性について議論がなされた。一方、Abdul Ghafar Ismail 氏によるスピーチ“Islamic Banking Integration into the International Financial System”では、2000 年代以降進んでいるイスラーム金融の内部(中東と東南アジア)・外部(国際金融システム)の両レベルにおける標準化の作業の現況が紹介され、その意義が考察された。報告セッションはテーマ別に、第 1 セッション「“Risk” in Islamic Finance」、第 2 セッション「Theoretical Foundation of Islamic Economics」、第 3 セッション「Islamic Finance in Practice and Country Difference」、第 4 セッション「New Horizon in Islamic Economic Studies」に分けられた。いずれのセッションにおいても通底していた問題関心は、昨今の金融危機を前にイスラーム経済はいかにあるべきなのかという点であったように思える。それは、単に、金融危機に対する処方箋をイスラーム経済の視点から提供するといった時流に乗ったものではなく、資本主義経済を構成する基本的な機能の捉え返しやイスラーム経済の特長の批判的な分析といった根本的なレベルにおける問題関心を含んでいた。そのような関心の下で、イスラーム金融の現状に対するクリティカルな評価が下され、金融以外の領域をも含んだイスラーム経済システムの可能性が検討された本ワークショップは、研究の国際的な潮流の中においてもきわめて貴重な試みであったように思われる。

(文責:長岡慎介)